大阪城

2023 11/16(木) 14404号

全港湾 西成分会

でんわ 6647-4947

気温が朝は8度とか、日中でも17度とか、寒くなってきた。軍手がいるようになってきた。向う3ヶ月ほど寒さの壁を突き抜けないと、生きぬけない。小さな工夫をつみかさねながら、寒さをやりすごし、暖い春にたどりつきたいものです。

国会は、続いているが、岸田首相は11/15〜19まで、アメリカ、サンフランシスコへ行くという。APEC(亜太平洋経済協力会議)がある。ウクライナ、パレスチナ、イスラエル戦争と米中対立でアメリカが手いっぱいになり、その上国内は、来年の大統領選挙で、混乱に火がつきはじめた。そこで、米中トップ交渉をして、軍事対立などを管理調整し、アメリカも一息つきたいのだろう。

岸田首相も、日中トップ交渉をした、ようだが、実現はまだ確定していないとかいっている。ウクライナが冬の塹壕戦に入り、ウクライナの反攻も失敗のようで、報道もあまりされなくなってきている。イスラエルのガザ突入、市街戦ばかりが報道されている。アメリカ

一極支配からの、国際システムがくずれはじめ、新しい地球の流れが流動化の中で生れはじめている。100〜200年も前の植民地支配へのゆりもどしで、反攻の地殻変動が物理的運動として、スイッチが入り動きはじめたようです。日本が、この地球的な動きに、うまくのっていけるのか、岸田首相はアメリカへの旅ですが、感じとれているだろうか、

求人は緩やかに減少

地域の現金求人は前年同月比でやや減少となった。求人者からは「例年年末にかけて仕事は増えるが、人材確保が課題だ」とも聞く。建設業の担い手を増やす取り組みが広がることが望まれる。

西成労働福祉センター（センターだより11/15）

若者が建設業への就職を検討するきっかけをつくるため、地域の建設業団体や工業高校等の教育機関が連携した取り組みを援助する仕組みが、国土交通省と建設産業人材確保・育成推進協議会を中心に動き出している。

建設業が引き続き「地域の守り手」としての役割を果たしていくため、特に若者や女性の人材の確保や育成に多角的に取り組む方針を、次年度予算の概算要求で厚生労働省と国土交通省は概要を取りまとめた。

建設業への若年者入職の促進を行う「若年者入職促進タスクフォース（TF）」の会合で、出張スタイルの企業説明会等新たな事例を紹介。また、ドローン操作を授業に取り入れる際の課題等を意見交換し、教材化等も視野に検討されるとのことだ。

10月の地域求人数（速報値）		対前月増減比	対前年同月増減比
現金（日払い）	14734	1.1 %	-3.5 %
契約（延べ数）	13665	2.0 %	-10.8 %
高齢者清掃ほか	4811	4.4 %	-8.7 %

寒さもあると思いますが、早朝の求職活動に出てくる労働者の数がめっきりへってきました。年末に向けてこのくらいのままいきそうです。

もはや戦争と言えない

世界中の民衆でガザの虐殺を止めよう